

6月9日（土）

シカゴ・カブス始球式

シカゴ・カブス本拠地球場のリグレー・フィールドにおいて、カブス（シカゴ）対パイレーツ（ピッツバーグ）戦が行われ、吉村市長が始球式を務めた。4万2千人収容の球場が満員となる中、大阪・シカゴ姉妹都市提携45周年を記念して吉村市長をお迎えしている旨の場内アナウンスがあった後、グラウンドで見守っていた大阪市会代表団に見送られ、盛大な拍手に迎えられながら吉村市長がマウンドに上がり、ノーバウンドでの投球を見せると、満員の観客はおおいに盛り上がりを見せた。その姿はバックスクリーンに大写しにされ、大阪・シカゴの繋がりを観客全員で再確認することとなった。



リグレー・フィールドにおける始球式の様子



投球する吉村市長の様子

ジャクソンパーク視察

シカゴ市公園局キャシー・ブライテンバッハ部長及び加藤領事の案内により、ジャクソンパークの視察を行った。1993年に大阪・シカゴ姉妹都市提携20周年の一環として大阪市が芝生の植栽などの庭園再生を行うことにより、後にその庭園は大阪ガーデンと名付けられた。



日本庭園前の門で説明を聴取する様子

2013年には120本の桜の木が植えられている。大阪ガー

デン内には茶室が設けられ、小規模な結婚式や子どもの教育活動に利用されている。かつて鳳凰殿とよばれた施設の跡地には、オノ・ヨーコ氏の寄贈による「スカイランディング」と呼ばれる蓮の花びらをイメージしたオブジェが設置されている。空と大地が融合し、過去を知る「種」として、また、平和と自然との調和を願い、鳳凰のように蘇るという意味が込められている。

公園の南側では自然環境をもとに戻す取り組みが進められており、鳥のすみかとなっている。連邦政府とも協働し、子どもが自然を学べるように整備を行っている。



スカイランディングの説明を聴取する様子

シカゴ姉妹都市プログラム大阪委員会主催ネットワーキングレセプション

ヨシズカフェにおいて、シカゴ姉妹都市プログラム大阪委員会主催のネットワーキングレセプションが開催された。大阪委員会メンバーに加え、住友電工カーバイドの木村寿良氏、パナソニック・ファクトリー・ソリューション・アメリカの鍛冶正勝氏、三菱UFJ銀行の長谷川暁彦氏、シカゴ日本商工会議所の三谷哲郎氏など民間企業等からも多数の参加者を得、官民にまたがる意見交換を行った。名嘉君代委員長の司会のもと、伊藤総領事より歓迎の挨拶が行われ、吉村市長からは、シカゴ姉妹都市プログラム大阪委員会の委員に対する謝意と企業に対して大阪・シカゴの関係強化に対しさらなる協力を求める挨拶をされ、角谷議長からも謝意とシカゴ市訪問を振り返っての挨拶があった。その後出席者一人一人から自己紹介を含む挨拶があり、テーブルごとにシカゴでのビジネス経験に基づく情報交換がなされた。